

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：12602

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K19495

研究課題名（和文）臨床看護師の攻撃性対処能力育成のための教育プログラムの効果測定

研究課題名（英文）Evaluating the effectiveness of the educational program for dealing with patient/family violence toward nurses

研究代表者

佐藤 可奈（Sato, Kana）

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・特任准教授

研究者番号：00757560

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：臨床看護師412名に対し、開発したe-learning教材による教育介入を行い、患者・家族の攻撃性に対する態度得点の介入前後の変化を測定しました。その結果、一部の項目において介入後の改善がみられ、教育による効果が確認されました。また、同時に聴取した自由記載内容の分析から、今回開発した教材の内容だけでなく、全体の構成や視聴しやすさが内容理解の一助となり、これらの効果につながったことが推測されました。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまでの研究成果に基づき開発した看護師の攻撃性への対処能力を育成するためのe-learning教材が、臨床看護師の態度に効果を及ぼすかを検証し、教育介入として実践への適用が可能かどうかを評価するために実施しました。本プログラムの導入により、患者・家族の攻撃性に起因する個人や組織の不利益を回避し、同時に信頼関係回復のための能力育成が可能となり、提供される医療・看護の質向上、患者・家族の満足度の向上に寄与することが期待できます。

研究成果の概要（英文）：The effectiveness of the educational intervention we developed for 412 clinical nurses was measured using a pre-post design single group approach. A web-based survey tool was used to compare Patient and Family Attitudes Toward Aggression Scale scores and analyzed the free description qualitatively. An improvement was shown in some items of the scale after the intervention, confirming the effectiveness of the education. In addition, the analysis of the free description implied that not only the content of the educational materials but also the overall structure and accessibility contributed to the effectiveness.

研究分野：看護管理学

キーワード：看護管理 リスクマネジメント 医療安全

1. 研究開始当初の背景

近年、医療機関における患者や家族からの医療者に対する攻撃性が世界的に問題となっており、本邦でも増加している。攻撃性は身体的暴力、暴言、拒絶、過剰な要求など多様な形をとるが、患者や家族と直接接触する機会が多いことから、特に看護職は被害を受けるリスクが高いとされている¹⁾。申請者の調査では、患者の攻撃性によって1か月の間に約3分の1の看護師が身体的被害を、約半数の看護師が精神的被害を経験している²⁾。さらに患者の攻撃性は、当事者への身体的・精神的被害をもたらす³⁾だけでなく、ミスや事故の増加⁴⁾・ケアの質低下⁵⁾・人員不足⁶⁾・コスト増¹⁾などの組織的問題の原因となるため、被雇用者に対する雇用者の責任という点のみならず、患者に安全かつ質の高いケアを提供するという点でも対策が急務であるといえる。

本邦では、欧米にやや遅れをとりながらも、院内暴力対策という枠組みで患者や家族の攻撃性への対処がなされてきた。暴力対策マニュアルや監視カメラなどの整備状況を把握するための調査^{7,8)}、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の評価要素(ver.6~)⁹⁾への院内暴力対策に関する評価項目の追加、日本看護協会による「保健医療福祉施設における暴力対策指針」の刊行¹⁰⁾など、組織的な院内暴力対策の啓発が積極的に行われるようになった。これらの取り組みは、看護師を対象に行われてきた複数の調査^{1,7)}で示されてきた、組織が看護師を守ることへの強いニーズに沿ったものとなっている。

一方で、臨床現場では、個々の看護師の攻撃性への対処行動を顧みずに現行の組織の院内暴力対策の枠組みのみで患者・家族の攻撃性に対処しようとする事への危惧も生じている。申請者が看護管理者を対象に実施した調査¹¹⁾では、看護師の関わり方の不備が患者の攻撃性を生み、助長させ、「患者に暴力をふるわせてしまう」ことも少なくないことから、看護管理者は看護倫理の視点から患者・家族を擁護する必要性を意識していた。また、本来は患者や家族と看護師が話し合って解決すべき問題が安易に「対応困難患者・家族」として患者相談窓口に持ち込まれる状況もあるという。これらは、看護師が患者や家族の攻撃性に対処する知識や技術をもたないことが大きな要因であると推測される。看護基礎教育におけるコミュニケーション教育は、対人関係理論等を基盤とし、互いに未知の存在である関係性構築初期に焦点が置かれ、患者や家族が医療者に疑念や敵意などの陰性感情を抱いている状況は想定されていない。また、古くから患者の攻撃性と関わってきた精神科領域では、患者の興奮や攻撃性を鎮めるディエスカレーション技術を含む教育プログラム¹²⁾を近年拡大しているが、攻撃性が必ずしも疾患由来ではない一般科病棟の看護師を対象としたプログラムは構築されていない。

2. 研究の目的

上記の背景をふまえ、研究者は、教育プログラムを構築し、現任教育および現行の看護基礎教育への導入を実現することにより、臨床看護師の攻撃性への対処能力の底上げを目指す、一連の研究プロセスを計画した。先行研究「臨床看護師の攻撃性対処能力育成のための教育の範囲と構成要素の同定」「臨床看護師の攻撃性対処能力育成のための教育プログラムの開発では、多様な職種・職位の関係者から教育要素を抽出し、介入対象となりうる臨床看護師や看護学生を対象にこれらの要素に対するニーズを聴取することで、現状に即したより効果的なプログラムの構築を試みた。

本研究の目的は、先行研究で構築された教材を用いて、患者・家族の攻撃性に対する臨床看護師の対処能力を育成するための教育プログラムを試行しその効果を測定し評価することである。本研究は、教育プログラムを構築し、現任教育および看護基礎教育への導入を実現することにより、臨床看護師の攻撃性への対処能力の底上げを目指す、一連の研究プロセスの最終段階にあたる。

3. 研究の方法

(1) 測定尺度の作成

攻撃性に対する看護師の態度尺度：Management of Aggression and Violence Attitude Scale (Duxbury, 2008) について、許諾取得後に研究チームメンバーと翻訳者により和訳・逆翻訳し、内容の等価性を確認した。また、作成した日本語版攻撃性に対する看護師の態度尺度を用いて、515名の看護師を対象に調査を実施し、信頼性および妥当性の検証を行った。構成概念妥当性検証のために、介護保健施設における攻撃的行動への態度測定において用いられる the Japanese Version of the Attitudes Towards Aggression Scale (中平ら, 2017) を利用した。

(2) 教育プログラムの効果測定

コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の紙面による質問紙調査と対面インタビューの計画を変更し、ウェブ調査により量的・質的データの調査を実施することとした。また、医療機関主導で e-learning による教育介入を実施する場合の視聴環境や視聴者特性と、インターネット環境により広域な対象者に教育介入・ウェブ調査を行う場合の視聴環境や視聴者特性との違いを考慮した上で検討を重ね、教材の全体構成や視聴時間・方法を調整した。これまでの調査研究をもとに作成した、ディエスカレーションの要素を含む e-learning 教材による教育介入を、調査会社のモニターである臨床看護師 515 名を対象に実施し、日本語版 Management of Aggression and Violence Scale (MAVAS) などを用いて、患者・家族の攻撃性に対する態度得点の介入前後の変化を測定した。また、介入の効果についての認識を問う自由記載項目により、質的データを併せて収集した。

4. 研究成果

(1) 測定尺度の開発

開発した日本語版攻撃性に対する看護師の態度尺度：Management of Aggression and Violence Attitude Scale (J-MAVAS) を用いて、515 名の看護師を対象に調査を実施し、信頼性および妥当性の検証を行った。その結果、信頼性・妥当性のいずれにおいても基準を満たさなかったことから、調査において構成概念妥当性の検討のために用いた、the Japanese Version of the Attitudes Towards Aggression Scale (中平ら, 2017) を効果測定において補助的に用いることとした。

(2) 教育プログラムの効果測定

収集データの分析により、日本語版 MAVAS のうち、患者・家族の攻撃性に対する認識、およびそれらの攻撃性への対処可能性についての認識に関する一部の項目における有意な改善がみとめられ、患者・家族の攻撃性に対する態度に対する教育介入の一定の効果が確認された。また、自由記載項目の質的帰納的分析により、介入内容(理論から具体的スキルへの発展、具体的状況を想定した対処法など) および、介入方法(e-learning 教材の全体構造や視聴方法) などに対する肯定的評価が示され、量的データの変化を説明する結果となった。一方で、適用範囲の限界についての記載もみとめられ、今後本教材を使用する際の注意点として活用可能な知見が得られた。量的・質的データの双方より、一連の研究で作成した e-learning 教材による教育介入は、臨床看護師の患者・家族の攻撃性に対する態度に対する効果を有すると結論づけられた。

引用文献

- 1) International Labour Office et al.. Framework guidelines for addressing workplace violence in the health sector. International Labour Office, Geneva, 2002.
- 2) Sato, K., Wakabayashi, T., Kiyoshi-T, H., Fukahori, H., Factors associated with nurses' reporting of patients' aggressive behavior: a cross-sectional survey. International Journal of Nursing Studies, 50 (10) 1368-1376, 2013.
- 3) Sabbath, E.L. et al.. Occupational injury among hospital patient-care workers: What is the association with workplace verbal abuse? American Journal of Industrial Medicine 57 (2), 222-232, 2014.
- 4) Farrell, G.A. et al.. Workplace aggression, including bullying in nursing and midwifery: a descriptive survey (the SWAB study). International Journal of Nursing Studies 49 (11), 1423-1431, 2012.
- 5) Celik, S.S. et al.. Verbal and physical abuse against nurses in Turkey. International Nursing Review 54 (4), 359-366, 2007.
- 6) Rew, M. et al.. A balanced approach to dealing with violence and aggression at work. British Journal of Nursing 14 (4), 227-232, 2005.
- 7) 社団法人全日本病院協会. 院内暴力など院内リスク管理体制に関する医療機関実態調査, 社団法人全日本病院協会, 2008.
- 8) 日本看護協会, 2003 年保健医療分野における職場の暴力に関する実態調査, 日本看護協会, 2004..
- 9) 公益財団法人日本医療機能評価機構, 病院機能評価事業. Retrieved April 24, 2015, from <http://jqchc.or.jp/works/evaluation/>
- 10) 日本看護協会. 保健医療福祉施設における暴力対策指針—看護師のために, 日本看護協会, 2006.
- 11) Sato, K., Yumoto, Y., Fukahori, H., How nurse managers in Japanese hospital wards manage patient violence toward their staff, Journal of Nursing Management, 24, 164-173, 2016.
- 12) 包括的暴力防止プログラム認定委員会, 医療職のための包括的暴力防止プログラム, 医学書院, 2005.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Sato Kana, Kodama Yoshimi	4. 巻 11
2. 論文標題 Nurses' educational needs when dealing with aggression from patients and their families: a mixed-methods study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e041711 ~ e041711
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2020-041711	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐藤可奈、小玉淑巨
2. 発表標題 日本語版MAVAS (the Management of Aggression and Violence Attitude Scale) の信頼性・妥当性の検証
3. 学会等名 第24回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------